

2020年11月7日

## 血栓回収療法後頭蓋内出血と術前梗塞巣内 FLAIR 高信号病変の関連についての 後ろ向き観察研究

急性期脳梗塞で入院治療歴のある患者さん及びそのご家族へ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、これまでの治療のカルテ情報から得られた研究データをまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身またはご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方で、ご質問がある場合、またはこの研究に「情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の担当者までご連絡ください。ただし、すでに解析を終了している場合には、研究データから情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

【対象となる方】国立循環器病研究センターにて発症24時間以内の急性期脳梗塞で2012年10月から2020年9月の間に入院、緊急血管内治療を施行された患者さん。詳細をお知りになりたい方は下記連絡先までご連絡ください。

【研究課題名】血栓回収療法後頭蓋内出血と術前梗塞巣内 FLAIR 高信号病変の関連についての後ろ向き観察研究

【研究責任者】国立循環器病研究センター 脳神経内科 吉本武史

【研究の目的】前方脳主幹動脈閉塞性病変に起因する急性期脳梗塞に対して血管内治療を行われた患者を対象として、MRI FLAIR 撮影で認めた、FLAIR 高信号病変の有無と血管内治療後の出血性変化の関連を研究します。

【利用する診療情報】

発症時の年齢、性別、日常生活自立度（修正ランキンスケールスコア）脳血管障害の既往の有無、動脈硬化危険因子の有無（高血圧、脂質異常症、糖尿病、喫煙歴）、心房細動の有無、発症前の抗血小板薬併用の有無、入院時の血圧、発症前抗血栓薬使用状況、喫煙の有無、発症から来院までの時間、来院時神経学的重症度、閉塞血管（内頸動脈、前大脳動脈、中大脳動脈、椎骨動脈、脳底動脈、後大脳動脈）、頭部 MRI/A 所見（画像的重症度、MRI FLAIR 撮影で認めた FLAIR 高信号病変）、血栓溶解療法の有無、血管内治療の有無、発症72時間後（±8時間）の神経学的重症度、発症90日後（±10日間）、日常生活自立度、発症90日後（±10日間）虚血/出血イベント

【研究期間】倫理委員会承認日より2022年3月31日まで

【個人情報の取り扱い】

お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌等で公表する際には、個人が特定できないような形で使用いたします。

【問合せ先】

国立循環器病研究センター 脳神経内科 担当医師 吉本武史  
郵便番号 564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6-1  
TEL (06)6170-1070 (内線 60320) (吉本武史)